

カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム カーボンフットプリント (CFP) 検証申請書

＜本ページ（表紙）は、関係者（事務局、委員、検証員）情報共有用資料となります＞

申請日	年	月	日
-----	---	---	---

検証申請者の連絡先等			
ふりがな 事業者名			
部署名等			
役職等			
ふりがな 氏名	ふりがな 氏		ふりがな 名
e-mailアドレス			
電話（固定・携帯） ※半角		携帯	
FAX ※半角			
所在地	〒 ※半角		都道府県
	市区郡以下		
	ビル名等		
ウェブサイトURL ^(※2)			

(※2) 検証後、CFPウェブサイトの「CFP宣言認定製品一覧」に本申請書「(2)登録情報シート」を掲載するにあたり、自らのウェブサイトへのリンクを希望する場合には、本欄に記入してください。

CFP検証申請書チェックリストによるチェック	
チェックリストによる チェックの有無	

CFPプログラム研修会・個別相談への参加の有無			
研修会	参加有無		参加日程
個別相談	参加有無		参加日程

検証後のウェブサイト 公開時期への要望など ^(※3)	検証申請の資料一式以外に、検証で利用する資料があれば必ずここに記載してください。事務局はこの欄を確認し、追加的に資料を添付するか確認をするので、ここに記載がない場合は、資料が含まれないことになります。 ※3) 検証後、CFPウェブサイトの「CFP宣言」ご要望がある場合、ご記入ください。 なお、CFP検証合格後に「CFP宣言登録・公開申請書」をご提出いただくにあたり、ここに記入いただけます。		
--	--	--	--

添付資料 ^(※4)	
----------------------	--

(※4) 本申請書以外に補足説明資料を添付している場合には、資料名称などを記入してください。

その他連絡先 ^(※5) （問合せ先／申請書の内容、データについて把握し回答の出来るもの）			
事業者名			
部署名・役職等			
ふりがな 氏名	氏		名
e-mailアドレス			
電話（固定・携帯） ※半角		携帯	
FAX ※半角			
所在地	〒 ※半角		都道府県
	市区郡以下		
	ビル名等		

(※5) 内容についての問合せ先が検証申請者と異なる場合のみご記入下さい。

【注意事項】

- ・最新版の認定CFP-PCRに基づいて計算されていることを必ずご確認下さい。
 (CFPウェブサイト[<http://www.cfp-japan.jp/>]にて最新版CFP-PCRのダウンロードが可能です。)

このシートはウェブサイト公開資料です。ただし企業機密情報は非公開とすること

カーボンフットプリント登録情報

「仕様 200mm×100mm、200g、…」は消費者からみると不親切な表現であることから、「仕様 サイズ 200mm×100mm、重量 200g、…」といったような「丁寧な表現」を心がけてください。

1. 製品情報		
1.1	登録番号	(申請時には記入不要です)
1.2	製品名称 (日本語)	この製品名称がウェブサイトの一覧に表示されますので、具体的に製品を特定できる名称としてください。英語の製品名称も併せて記載してください。全角60文字以内としてください。(システムで制限されています)
	製品名称 (英語)	
1.3	製品型式	
1.4	製品の主要仕様・諸元	(製品の重量・サイズや性能など、型式を特定する情報など)
1.5	CFP算定単位	
1.6	公開日	(申請時には記入不要です)

なお、認められない表現としては「リサイクル30%」などが上げられます。リサイクル30%だと、使用した原材料にリサイクル材が30%入っているのか、リサイクルが30%されることを前提に算定を行ったのか、どちらかわからないので、「リサイクル材を30%使用した製品です」などと記載してください。

製品写真やイラストを貼り付けてください。(230×230ピクセル以上が望ましい)

製品写真

2. 事業者情報		
2.1	事業者名 (日本語)	
	事業者名 (英語)	
2.2	電話番号	

登録情報への問い合わせに対応できる連絡先を記載してください。

3. CFP算定結果およびCFP宣言の内容			
3.1	CFP算定結果 (カーボンフットプリント)	8.5	3,300
	内訳 (ライフサイクル段階別、プロセス別、フロー別)		150
3.2	原材料調達段階	8.5	12
	生産段階	0	8.3
	流通段階	0	0.55
	使用・維持管理段階	0	0.13
	廃棄・リサイクル段階	0	kg-CO ₂ e

3桁目を四捨五入した2桁表示が原則です。値が非常に小さい場合は「〇〇未満」と表示して構いません。
<表示例>
3,300
150
12
8.3
0.55
0.13

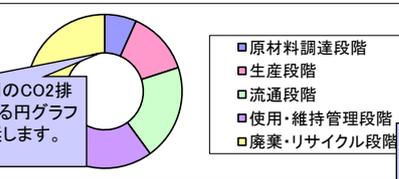
は内訳の合計値と若干の差が生じます。単位は「g-CO₂e」「kg-CO₂e」「t-CO₂e」のいずれかを適切に選択してください。

<例>
・製品1個あたり
・内容量100gあたり
・1食あたり
・使用1回あたり

3.3	数値表示	<記載内容>	<数値表示の単位>
	追加情報	ライフサイクル段階別のCO ₂ 排出量の割合を表示する円グラフを記載することを推奨します。	

「〇〇g」など数値表示を行う際の数値と単位を書いてください。3桁目を四捨五入した2桁表示が原則です。

数値表示や追加情報の表示を行わない場合は、3.3の記入は不要



①「カーボンフットプリントの算定・宣言に関する要求事項 3.2.5. 項 追加情報」および「CFP-PCR 12-1 追加情報」に記載されている要求事項に従って記載してください。
②なお、4.1 CFP算定結果の解釈など、本シート(登録情報)に記載されている内容については検証の対象となりますので、追加情報として表示することができます。記述の重複を避けるため、この欄に本シートの他の情報を記載する必要はありません。

シリーズ製品として算定している場合は、その旨を記述してください

4. CFP算定結果の解釈		
4.1	CFP算定結果の解釈	検証申請書に記載されたもの(算定に用いたデータ、算定結果)のみから第三者が見ても明言できる範囲で結果を解釈してください。 ○適切な例「原料調達段階における温室効果ガス排出量が最も多くなりました。これは、購入原料である〇〇の生産に起因するものが大部分でした。ただし、原料使用量は当社データを利用していますが、原料製造時のデータは一般的な値を利用しているため、当製品素材固有の特徴を反映していない場合があります。そのため、この結果は概算値としてご理解ください」 ○適切な例「使用段階における温室効果ガス排出量が最も多いため、使用時の省エネ性能が非常に重要な要素と言えます。なお、使用段階使用・維持管理段階は、一般的な条件を設定して評価したため、お客様の利用条件と同じでない場合があります」 ×不適切な例「一般的に〇〇製品は使用段階の影響が多いのですが、当該製品はその割合が小さいため、環境に配慮した製品と解釈されます」(検証対象外である他製品と比較してはならない。また、温室効果ガス排出量のみ算定しているため、環境に配慮した製品とは必ずしも言えない。) ×不適切な例「原材料である〇〇の寄与が大きいため、今後は〇〇など、別の材料にすることでCO ₂ 削減が期待されます」(素材変更後、使用量(活動量)が同じとは限らないため比較はできない) ×その他、不適切な例: コスト・価格に関する記載(コストは検証外のため)

5. 算定条件		
5.1	認定CFP-PCR名称	5 認定CFP-PCR番号
5.3	利用した二次データの考え方	

利用した二次データの考え方について記載してください。複数ある場合は、優先順位を記載してください。
<表記例>
・基本データベースver.1.0を優先して利用しつつ、利用可能データ(国内)ver.1.0で補完した
・3EID(2005)を優先して利用しつつ、基本データベースでver.1.0補完した

6. 検証情報			
6.1	検証方式	個別検証方式	6 システム認証番号 (個別検証)
6.3	検証番号	(申請時には記入不要です)	6 検証有効期限 (申請時)
7	備考	(事務局使用欄)	

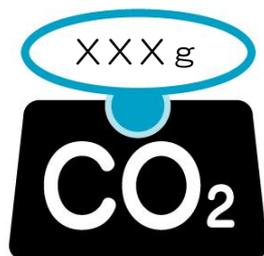
数値表示(案)

(製品やカタログに数値表示を行う場合のイメージを記入(追加表示含む))

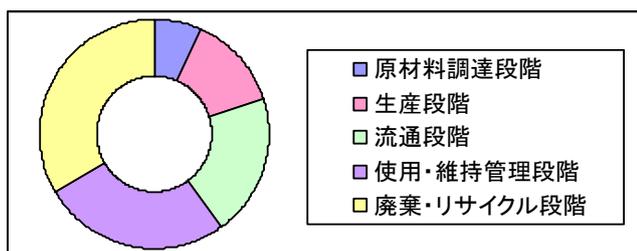
本資料によって、具体的な表示のイメージについて、必要な情報が抜け落ちていないか等の確認を行うものです。申請時に検討している、製品販売時の具体的な表示(案)を記載してください。

〈本シート以降は、関係者(事務局、委員、検証員)情報共有用資料となります〉

数値情報を表示する場合のイメージ(案)



CO₂の「見える化」
カーボンフットプリント
<http://www.cfp-japan.jp>
CR-XXYY-ZZZZ



ライフサイクル段階別のCO₂排出量の割合を表示する円グラフを記載することを推奨します。

CFPマークに数値表示を行う場合の

- 数値表示
- 追加情報 などの表示イメージを、「カーボンフットプリント宣言の方法に関する要求事項」に従って記入してください。

- ・ 「カーボンフットプリント宣言の方法に関する要求事項」に従って、マーク表示のイメージ案を記入してください。
- ・ ダウンロードURL
<http://www.cfp-japan.jp/regulation/index.html>

フロー図

申請対象製品の製造のフロー図を記載する。

申請者が新たに作成することを必須にするものではなく、CFP-PCRに貼付されたフロー図を加工してもよい。

ただし、PCRはPDFファイル以外では公表されていないため、自社の製品のフロー図を新たに作成することが望ましい。

申請者名

対象製品

使用CFP-PCR

フロー図を作成・貼付

横でも縦でも良いですが、印刷時に切れないように印刷のプロパティで調整してください。

なお、フロー図の中間製品やプロセス等に番号を付し、「(5)データ入力と算出結果」シートの「プロセス名」の欄および「(6)データの根拠」シートの「(必要に応じて)関係するエビデンス資料、説明資料の名称、プロセス番号」の欄にそれぞれ番号を記載すること。

データの根拠：活動量及び原単位のデータ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等

非公開資料

参照番号	活動量／原単位	(必須) データ入手方法、計算式、式の説明、データ収集期間、等	(必須) 関係するエビデンス資料(データ出典の名称、データ作成者の名称、社内情報システムの名称等)、説明資料の名称、プロセス番号
A1	活動量	<ul style="list-style-type: none"> 製品の仕様書における各種部材の重量構成比を把握する。キャップ部材の重量は4.545kgであった。(A2と異なるデータ入手方法を採用するのは、適用される商品が限定されている部材の場合、全商品で配分計算を行なう行A2の手法が適していないため。) 社内生産管理システム●●から、キャップの射出成型の際の端材の発生割合を把握する。端材発生割合は投入樹脂量に対し10%である。 計算式:投入樹脂重量=キャップ部材の重量×(1+端材発生割合) $5.00(\text{kg})=4.545(\text{kg})\times 1.1$ 	プロセス① 製品仕様書 社内生産管理システム●●
A2	活動量	<ul style="list-style-type: none"> * * 工場における年間投入量を一次データで収集し商品間で生産個数で配分。 データ収集期間:1年間(2008年7月～2009年6月) 各種伝票よりデータ収集 配分方法:個数配分。 	プロセス① * * 工場伝票集
A3	活動量	<ul style="list-style-type: none"> 社内生産管理システム●●から、キャップの射出成型の際の端材の発生割合を把握する。端材発生割合は投入樹脂量に対し10%である。 廃棄物マニフェスト伝票から、この端材の処理方法を把握する。80%はリサイクル業者が引き取り、20%は廃棄物として焼却処理される。 計算式:投入樹脂重量×端材発生割合×リサイクル率 $5(\text{kg})\times 0.1\times 0.8=0.4(\text{kg})$ データ収集期間:1年間(2008年7月～2009年6月) 	プロセス② 社内生産管理システム●● マニフェスト伝票
A4	活動量	<ul style="list-style-type: none"> 社内生産管理システム●●から、キャップの射出成型の際の端材の発生割合を把握する。端材発生割合は投入樹脂量に対し10%である。 廃棄物マニフェスト伝票から、この端材の処理方法を把握する。80%はリサイクル業者が引き取り、20%は廃棄物として焼却処理される。 計算式:投入樹脂重量×端材発生割合×焼却処理率 $5(\text{kg})\times 0.1\times 0.2=0.1(\text{kg})$ データ収集期間:1年間(2008年7月～2009年6月) 	プロセス② 社内生産管理システム●● マニフェスト伝票
A5	活動量	<ul style="list-style-type: none"> 製品の仕様書における各種部材の重量構成比を把握する。キャップ部材の重量は4.545kgであった。 PCR原材料調達輸送のシナリオより「10トトラック、積載率25%」を使用 キャップ生産工場から製品生産工場までの距離はgoogleマップから算出。50kmであった。 計算式:キャップ部材の重量×距離 $0.227(\text{tkm})=4.545(\text{kg})/1000(\text{kg}/\text{t})\times 50\text{km}$ 	プロセス③ 製品仕様書 PCRシナリオ googleマップ
...
B1	原単位	基本データベース	
B2	原単位	利用可能データベース	
...
		活動量と原単位は分けて記載するようにしてください。	

検証において、「(5)データ入力と算出結果」のシートと、この「(6)データの根拠」シートを使用して、妥当性の確認を行うことから、この部分の記述は丁寧に行ってください。
 なお、重複する記述を繰り返すのは避け、参照番号を統一するなどの工夫をしてください。

「(4)フロー図」に記載したプロセスの番号を本欄に併せて記入すること。